

平成21年度第2回三重県認知症地域支援体制構築等推進会議概要

平成22年2月23日（火）

13時30分～15時30分

J A 三重健保会館

県・市町から取組状況を説明。その後のやりとりは以下のとおり。

（委員）

- ・ 今まで活発にやってきた事業を、どうしたら継続していくことができるかと考えているか。次につながるというところで、非常に重要なことであると考えている。

（松阪市）

- ・ この事業について、「誰か旗振り役がいて、やらされる事業」ではなくて、事業に関わる職員が「自分達が主体的に関わり、地域へ入っていくことの面白さ」を感じる事が大切な事業だと感じた。今後も、地域のモチベーションを上げていくような支援の仕方を継続していきたい。

今まで単発的にしかできなかった取り組みを、まだ実施していない地域で実施するとか、事業の厚みを増していけるようにしたいと考えている。

地域力の向上を図るという点で、一人でも多く協力者・支援者を増やしていけるように、取り組みを広げていきたい。

（名張市）

- ・ 認知症の問題だけでなく、介護予防や、健康づくり等の色々な保健福祉事業を14地区のランチを活かして行っていきたい。

認知症ケアの向上については、グループホーム、小規模多機能型居宅介護事業所の果たす役割をはっきりさせた方がいいのではないかと考えている。サポーター養成講座でグループホームの方に来てもらったが、逆にグループホームの方も勉強になったようだ。今後もお互いに協力していきたいと考えている。

また、保険者の立場から、一人暮らしの認知症の方については、ケアプランへの取り組みをしっかりとやらないと、今までどおりのケアプランでは支えきれないと感じている。どうやっていけばいいのか、ケアマネージャーと共に、また老健の方も老健の在り方について悩んでいるので一緒に考えていけたらと考えている。

医療については、いかんともしがたい所があるが、市立病院に週1回神経内科の医師が来てくれており大変助かっているので、協力関係を作っていきたいと思っている。

(伊賀市)

- ・ この2年間は基盤づくりを行ってきたと考えている。「高齢者安心見守りネットワーク」を作ったが、これは職種で構成したもので、職種で構成したことにより縦割りになっているため、地域の中で職種ごとに連携した、地域に根付いたネットワークにしていきたい。

また、伊賀市には6つの生活圏域があり、その圏域ごとに地域ケア会議を設けている。この地域ケア会議と、高齢者安心見守りネットワークのつながりを強化したいと思っている。

(御浜町)

- ・ 事業の継続をイメージしながら、次年度の事業に取り組んでいきたい。地域住民に根付くところにいかにかかっているかが、ポイントになってくると思う。事業も単発ではなくて、継続性のあるものを仕掛けていこうと考えている。

徘徊SOSネットワークの模擬訓練も、今回はこの地域で行うが、来年度は違う地域で、という風に町内を回って実施し、少しずつ住民の理解を深めていければと考えている。

(委員)

- ・ この事業を中心になって進めてきた方、つまり本日ここにいらっしゃる方々が、住民がより主体性を持って自立していくことができるように、今後もサポートをしていく体制をとっていくのか。先ほど松阪市からの報告で、各地域包括支援センターが手を取り合っていく、という話があったが、それぞれの地域の担当者がそれぞれの地域をより活性化していくということなのか。

(松阪市)

- ・ 今の体制をなるべく続けたいと考えている。どこまで自分達が旗を振るかは、段階によって違ってくるだろうが、市の役割はこれからもあると考えている。市内の各地域包括支援センターのそれぞれの地域でコーディネーター役を担ってくれる5人の地域包括支援センターのメンバーが、各地域で中心になって取組みを進めていくとともに、松阪市全体として、我々も共に考えながらやっていきたいと考えている。

(委員)

- ・ グループホームにも色々な格差がある。良い取り組みをしているところもあれば、まだこれからというところもある。ただ、一つ申し上げたいのは、認知症ケアに関しては、専門的なことをやっているということ。グループホームにいる方は、認知症の方ばかりであり、職員はその方の生活の全体を見ている。デイサービス等の他の事業所よりは認知症の方に対しての関わり方

や認知症の方のことを勉強して、色々なことを取り込んでいると思っている。

グループホームの職員を呼ぶときには、そういう取り組みを行っている事業所を厳選して呼ぶといいと思う。

ネットワークづくりや、マップづくりにも、グループホームを活用してもらいたい。グループホームは24時間対応である。市町の窓口は夜間、休日は閉まっているし、デイサービスも夜間に対応してくれるところは少ない。老健や特養も24時間の対応をしているが、グループホームはより地域に密着しているので、地域の駆け込み寺のような役割を果たせると考えている。

モデル地域の取り組みについては、よい取り組みをされたと思っているが、作成されたパンフレットの内容をみると、殆どが家族向けに認知症の方への対処の仕方を書いたもので、ほぼどれも同じような内容になっている。例えば、認知症の方が歩いていたら、どのように声掛けするのか等を書いたものがあってもいいのではないか。地域の中での対応の視点が抜けているのではないかと思う。

認知症の方へのサポートについては、実際に認知症の方と関わってみるとか、疑似体験をすることにより、身近に感じられるのではないか。

伊賀市は、個人情報のことに取り組んでおり、大変な部分に切り込んでいえると思う。大変なことだが、とても大切なことで、色々な弊害があるにしても、皆さんに考えてもらいたい問題である。

(委員)

- ・ モデル地域の取り組みに感謝している。名張市では、長年続いた区長会を廃止し、21年に地域づくり協議会代表者会議を立ち上げ、14地区にまちづくり協議会を立ち上げた。その中に部会を設け、その中で認知症などの問題に取り組み、地域全体で認知症の人をサポートしていこうとしている。

また、医療の面で、名張市では医師が不足している。名張市だけではなく、全国的な問題であるが、医師不足の問題は、三重大学等から考えてもらわなければならないところだと思う。先日の地域の懇談会の中でも、殆どの方が医療の問題を取り上げている。

(委員)

- ・ 10年前では、このような地域での取組みは考えられなかった。家族から声をあげられるようになったことについて、感謝をしている。

認知症サポーターの取組みについては、「まちづくり」の視点から一歩進んで、本人支援、家族支援といったところにも目を向けていただければありがたいと思う。また、サポーター講座を受講した人から、何をしたらいいのか、という問い合わせを受ける。まちづくりの一環であること、サポーターが地域の資源として動いてもらえるような何かを考えていかないと、「受講しただ

け」の、おせっかいな人をつくるだけになってしまう。しかし、サポーター講座を受講した人が、介護家族または本人という場合もあり、中には適切な支援ができる人もいる。これらの方を含めた地域づくりを考えていただければと思う。

(委員)

- ・ 認知症の人を介護している家族の中には、家族が認知症であることを言いたがらない人もいるが、地域ぐるみで助け合うことが大切だと思う。

(委員)

- ・ 各市町とも、立派な活動をされていると思う。この事業に限らず全ての事業は、サービスの側面と、住民参加・住民主体の側面、ネットワークの側面を持っていると思う。

認知症については、「助けてほしい」という声が支援を必要とする人から出にくい領域のことである。行政等から「申請をして下さい」と求めるということではなくて、もっと敷居の低い、気楽に「助けて」と言える雰囲気が必要だと思う。

認知症サポーターの活動の場や出番がないことについては、参加の受け皿作りが必要だ。何らかでサポーターがつながっていると、そこから主体的な活動に発展していけるのではないかという気がしているので、是非「参加」というキーワードを視点に持ち続けていただきたい。

もう一つはネットワークの視点である。色々な社会資源があるが、それらがバラバラに機能してしまう。ネットワークをどのように生かしていくのがポイントで、誰かがマネジメントする必要がある。これが上手くいくとネットワークがスムーズになる。認知症の分野で、どのような人がコーディネーターになるのが適当か、というのは難しい問題だが、コーディネーター機能を果たす者は今後必要だろう。この取組みは、認知症への取組みだけに終わってはもったいない。健康づくりへの活動や、地域医療のネットワークへつなげるとか、色んな形への発展、そういったものを期待したいと思っている。

(委員)

- ・ この事業は単独で動いている事業ではなく、地域ケア体制の構築の一つとして、県が大切に見守っているものであると改めて感じた。

モデル地域から、推進会議の度に事業内容を報告いただき、中身を充実させ、取り組みが地域に根付いてきたことが良くわかった。来年度以降もよろしく願いしたいと思う。

地域での民生委員の存在は非常に大きいと思うので、こういったモデル地域で取り組まれた内容を会議等で共有していきたいと感じた。

権利擁護事業についても、認知症の対策と密接にかかわっており、県社協としても関わらせていただく部分はあると思うので、よろしくお願ひしたいと思う。

県の来年度の新規事業である「若年性ケア・モデル事業」は、事業所数としては何箇所を想定しているのか。

(長寿社会室)

- ・ 事業所数は検討中である。

(紀宝町)

- ・ 各市町の取り組みを聞かせていただいて、参考になった。来年度、委員の皆様には色々ご指導いただきたいと思う。

地域包括支援センターの総合相談の中でも、認知症に関する相談が多い。これはこのままではいけない、ということで認知症対策を重点目標にあげ、本モデル事業にも参加することとしたので、よろしくお願ひしたい。

(いなべ市)

- ・ 各市町の取り組みを聞かせていただいて、これから自分の市で取り組むにあたって、活動の核が見えてきたように感じた。既に高齢者の見守りネットワークを立ち上げているが、このネットワークで考えている取り組みと本モデル事業の取り組みが非常に共通していることから、本モデル事業に取り組みたいと考えた。関係機関と手をつなぎ、地域づくりにつながる最初の石を置く、という意識で取り組みたいと思う。

また、皆さんの話や委員の皆様のご助言を聞いて、とてもやる気になったし、周りにお力添えをいただく仲間がいるということで、頼もしく感じた。

(四日市市)

- ・ 認知症ケア他職種協働研修・研究事業に取り組む中で、地域資源マップを作成してみようということになり、今回モデル事業に参加することにした。市内の25地区の在宅介護支援センターが中心になってどこまで取り組めるか、またマップをどのように生かしていくのか、配布先はどうするのか等、次につなげていくものとして効果的な事業にしなければならないと考えながら、本日の報告を聞かせていただいた。

(名張市)

- ・ 三重大学に4月から認知症専門の講座ができると聞いたが、講座の内容、どのように地域貢献していくのか、認知症疾患医療センターとの関係等をお聞きしたい。

また、成年後見制度について、市町申し立てを行う案件が年々増えてきているが、認知症の鑑定を引き受けてくれる医師が少ない。鑑定の問題で時々つまづくので、認知症疾患医療センターで引き受けてもらいたい。

先日のこころの医療センターの会議では、引き受けるのはなかなか難しいとお話をいただいた。

(長寿社会室)

- ・ 三重大大学の寄付講座については、医療政策室の所管になるので、内容を確認の上、追って情報を提供したい。

(委員)

- ・ 御浜町の徘徊SOSネットワークの模擬訓練は、映像化する予定はないのか。

(御浜町)

- ・ 映像化の予定はない。情報伝達訓練をまずは中心に行いたい。地域で訓練を実施するので、サポーター講座をセットで展開しているが、今後認知症の人に対する声掛けの訓練というところも取り入れながら展開できると、色々な場面が想定できると考えている。

(委員)

- ・ お店の中でウロウロしている人、お金が払えなくて困っている人に出会った時はどう対応するのか、地域包括支援センター等へどうつなげていくのか、という視点もあれば良いのではないか。

(委員)

- ・ イオンが従業員向けのサポーター講座用に、認知症のお客様への良い対応方法の事例を作っている。私たちもそういうものを拝見したり、借りることができればいいと思う。

(長寿社会室)

- ・ イオンの講座で使用した認知症の方への良い対応例のシナリオは、県で持っているので、全国キャラバンメイト・連絡協議会へ確認のうえ、提供しても良いということであれば、提供したい。